



中部の

# エネルギーを 築いた

# 人々

御高町長を務め電気事業経営などを  
手がけた事業家 野呂 静

野呂静は、明治13年6月、岐阜県可児郡御高町に、兼松徳助の次男として生まれた。御高町の名家、野呂房右衛門の養子となり、後年同家三女たまと結婚した。野呂家は中山道御高町の本陣から分家した商家で、金融業を始め繭、木材、織布などを手広く扱っていた。野呂は家業に励む傍ら、明治40年4月には推されて町長となった。以来、4年間の中断を挟み、大正8年5月まで町長を務め、自治を振作し、産業を伸長させた。野呂の治績として伝えられるのは、御高区裁判所の残置問題である。司法当局では同裁判所の移転を決めたが、町の興廃に関わる重大問題として東奔西走し、遂に移転案の撤回を実現し、建物も改築されて司直の府として面目を一新した。大正5年頃、子女の教育のため、名古屋市に移転したが、以降も町長を続けた。この間に名古屋電灯社長の福沢桃介と相知るところとなり、電気事業への関心を深めた。また電気事業以外にも、地域の資産家として鳳来寺鉄道・東美鉄道の監査役、三重モーターズ社長、昭和自動車取締役、名古屋鋳業専務、名古屋新世界取締役など幅広く活躍し、第2次大戦後も御高町長に再度就任(昭和24~28年)し、昭和47年3月、92歳で没している。実家の「商家竹屋」は、現在町の有形文化財として公開されている。趣味は書画、長唄、写真。同郷の画家川合玉堂とは懇意だったという。以下、野呂の関わった電気事業について紹介する。



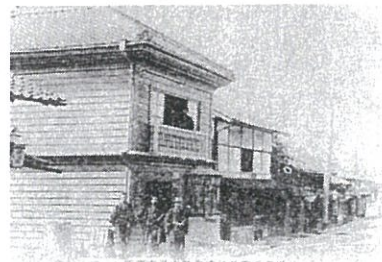
野呂 静 肖像画  
(中山道みたび館提供)



旧野呂家(御高町有形文化財  
「商家竹屋」、筆者撮影)

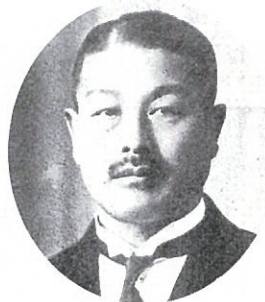
## 可児川電気専務取締役

可児郡御高町に、平井信四郎(前上之郷村長、後に東濃鉄道社長、衆議院議員)が中心となって可児川電気創設の計画が進められた。板取川水力電気を立ち上げた武藤助右衛門が社長、野呂が専務取締役となり、発案者平井信四郎は取締役として経営の中心になった。可児川の支流津橋川の流れを利用して美佐野発電所(60kW)を建設し、御高町をはじめ



可児川電気本社  
(『御高町史通史編下』)

め、兼山町、今渡町など7ヶ町村に供給し、近辺の亜炭鉱にも排水用の電力を供給した。「商家竹屋」には、野呂が社屋を建設し同社に貸し付けた記録が展示されている。大正元年9月に送電を開始したが、水量が不安定で上流に貯水池を追加設置して供給の安定をはかった。しかし大正4年8月の水害により大きな被害を出し、板取川水力電気の協力を受けて再建を進めた。同7



平井信四郎  
(出典：平井信四郎氏功績保存会編「平井信四郎伝」)



旧美佐野発電所取水口跡(松永直幸氏提供)

年4月には、板取川水力電気の系列会社である犬山電灯と合併し、尾北電気と改称した。なお、美佐野発電所は現存しないが、取水口跡が現地に保存されている。

## 東濃電化取締役社長

大井町、長島町、武並村などに電灯電力を供給した東濃電化(当初：大井電気)は、野呂を社長として大正7年6月、資本金50万円で設立された。当初は大井町(現恵那市)にカーバイド工場を設け自社供給するとともに、余剰の電力を周辺地域に供給する計画だったが、同8年11月に開業したときは大戦ブームが終わり、カーバイド工場の計画は中止し、一般電気事業としてスタートした。木曾川支流の阿木川最下流の地点に奥戸発電所(旧称大井発電所、450kW)を設け、一般供給のほか中津電気ガス、矢作水力岩村営業所、多治見電灯所などに卸供給した。東濃電化は、福沢桃介の系列会社で構成する「電華会」にも参加していた。(昭和13年8月中部合同電気に合併)。野呂はまた、可児川電気社長の武藤助右衛門が経営した美濃電力(大正13年8月開業、郡上郡3ヶ村に供給)に相談役として参加していた。



奥戸発電所(中部電力岐阜支店提供)



奥戸発電所取水口  
(「恵那町史通史編第3巻(1)上」平成5年1月)

## 信美電力、伊那川電力監査役

野呂は、福沢桃介との親交を背景に、福沢系の電気事業にも関わりを持った。一つは、木曾川支流の付知川開発を目的に大正14年4月に設立された信美電力(同年8月、北恵那電力を改称。信美電力は信州と美濃の頭文字から名づけられた。)の監査役である。付知川の開発は経済的に難点があったので、賤母発電所(大同電力)の工事用発電所として建設され、その後放棄されていた与川地点を譲り受けて再開発(与川発電所、1760kW)し、昭和2年1月に竣工した。7年4月、同社は同じ福沢系の伊那川電力と合併している。伊那川電力は旧樺太工業が製紙工場で使用していた田光発電所と水車動力として使用していた



橋場発電所(関西電力「関西電力の水力発電所」)

橋場地点を譲り受けて福沢系事業として昭和3年11月に設立された。野呂は3年11月から8年6月まで、監査役に就いている。設立後木曾発電に改称、橋場地点を発電所に改造して昭和4年2月に運転を開始し、蘭川筋に妻籠発電所(同9年11月)、伊那川上流に相之沢発電所(同13年3月)を建設した。

## 濃飛電気・大白川電力取締役

野呂は福沢系人脈に繋がる兼松熙の電気事業にも関わった。一つは濃飛電気(大正10年3月設立)で、兼松が専務取締役(後に社長)として取り仕切り、野呂は取締役に加わった。同社は、大正12年3月に、根尾川筋の長島地区に長島発電所(現根尾発電所、4050kW)を建設している。また関係会社として大正11年3月に大白川電力が設立され、野呂は取締役経理部長に就任している。同社は15年11月に庄川上流の大白川に平瀬発電所(11000kW)を建設し、翌12月に濃飛電気に合併された。根尾、平瀬両発電所は地元へ供給したほかは、東邦電力に卸供給した(昭和3年7月に三重合同電気と合併)。

(浅野 伸一)



根尾発電所(当時)



平瀬発電所現況(筆者撮影)